

5-11歳の新型コロナワクチンの開始に向けて 今わかっている子どもの新型コロナウイルス感染症と ワクチンについて

新潟県医師会

子どもの新型コロナウイルス感染症について

新型コロナは子どもにも感染し、子ども同士でも
広がる感染症です

感染力が非常に強い変異ウイルスの出現により、
子ども同士の感染が増え、保育園・幼稚園や学校で
クラスターが発生しています

子どもの場合、無症状や軽症が多いですが、
まれに重症化することもあります

子どもにも後遺症(Long COVID)を生じることが
あります



子どもの新型コロナウイルス
感染症の後遺症として、
だるさや呼吸苦、筋肉痛、
睡眠障害、胸痛、頭痛、
脱毛、腹痛など、様々な
症状が報告されています。

子どもが感染すると家族も隔離対象になります



特に基礎疾患のあるお子さんが感染すると重症化する
ことがあります。

新型コロナに感染して2-6週経ったところで
心臓を中心とした全身の血管に炎症をきたし、
非常に重篤な状態になる小児多系統炎症性疾患(MIS-C)
を生じることがあります。

保育園・幼稚園や学校で
子どもが感染した場合、
家族は濃厚接触者となり、
一定期間、隔離が必要に
なります。

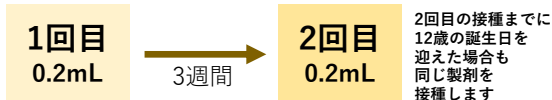


日本小児科学会HPに、考慮すべき
基礎疾患などについて公表されています



5-11歳の新型コロナワクチンについて

5-11歳はファイザー製ワクチンを2回接種します



他の種類のワクチンとは前後2週間以上
間隔を空けて接種します

同時接種はできません

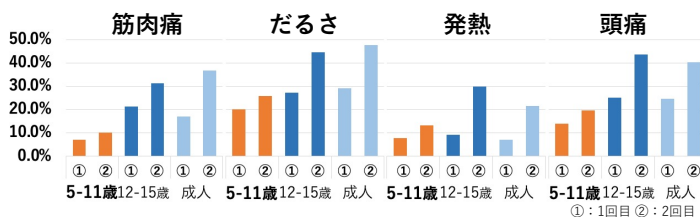
12歳以上のワクチンと製剤が異なり、
mRNA成分は1/3の10 μ gです

mRNAワクチンの仕組みについては
こちらのマンガをご参照ください
(新潟大学小児科学教室がマンガで解説しています)



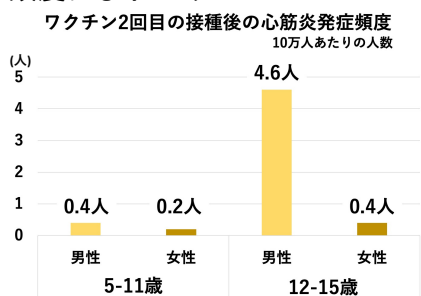
QRコードをスマホで
読み込んで下さい

5-11歳の子どもの新型コロナワクチンの副反応は、
12-15歳の子ども・成人よりも頻度が低いです



12歳以上と比べてだるさや発熱、頭痛などの
全身症状が少なかったです(特に2回目の接種)。

5-11歳の子どもの新型コロナワクチンによる
心筋炎の頻度はまれです



新潟県の5-11歳の人口は約11万7千人ですので、
全員に接種しても、0.2-0.4人程度の発生率です。

『5-11歳の新型コロナワクチンについて』
でより詳しく解説しています。
是非そちらもご参照ください。

